

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590600017		
法人名	有限会社 オアフ		
事業所名	グループホーム オアフ		
所在地	滋賀県草津市草津2丁目5-24		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成24年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の笑顔が少しでも多く見られるように、そして、「あなたがいてくれてよかった」と言っていたできるように、日々の関わりを大切にしている。また、毎日の健康チェックを怠らず、利用者様の「いつもと違う」心身の変化の早期発見に努めている。地域の中で、利用者様が安心して日々の生活を送っていただけるような、そして、感動していただけるようなサービスを提供できるよう、職員のレベル向上に努めている。また、草津の商店街の近くに立地しているという地の利を活かし、地域のイベントに参加し交流も盛んに行っている。平成24年10月より、浴室に機械浴槽(座浴)を設置し、身体レベルの低下等により、浴槽への入浴が困難になった場合にも、安全で快適な入浴時間が提供できる。

JR草津駅前商店街の近くにあり、平均年齢87歳の女性ばかり18名が暮らしている。「その人がいつまでも輝き続ける」を理念に掲げ、職員は日常の体調を細かく観察して業務日誌にきめ細かく記録し、それを基に利用者は行き届いた介護を受けている。今年6月から医療連携体制加算事業所となり、健康管理面で一層安心して過ごせる体制になった。10月には新しく機械浴槽を設置し、より安全で快適な入浴ができるようになった。4月の宿場祭り、8月の夏祭り、11月には「草津街灯り華灯り夢灯り」が開催されるため、利用者がその行燈作りをしている。広報誌「傾聴」を毎月発行し町内会、商店街等に配布、その中に「古くなったタオル下さい」と掲載してたくさん協力いただき、汚物処理、雑巾などに活用するなど地域との交流も盛んである。昨年3月にスプリンクラーを設置し防災対策を強化した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が、その人らしくいつまでも輝き続けていただけるよう、存在意義を明確にし、全ての関わりに反映させるよう努めている。	「地域の中でその人がその人らしくいつまでも輝き続けられるように」を理念に掲げている。その実現を目指して地域の行事に積極的に参加したり、職員会議の場で、唱和し日常での実践を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オープン当初より自治会に加入している。利用者様の整髪は近隣の美容室へ出かけて行っている。また行事で作ったもの、例えば年末の餅つきの餅や焼き芋、オリジナルカレンダー等を近隣の方々へ利用者様とお配りしている。	広報誌「傾聴」を毎月120部発行し、家族、20組ある自治会へ回覧、商店街の店等に配布している。宿場祭りでは商店の軒を借りての見学など地域との交流は盛んに行っている。中学校の体験学習(5日間)を毎年受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している、広報誌「傾聴」に、認知症についての記事を掲載し、回覧板や手配りにより、地域へ発信している。地域との関わりを深めるため店舗の紹介等コミュニケーションをとる努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に一度開催し、行事や取り組みを報告している。民生委員の方の声掛けにより始まった、近隣の幼稚園児の訪問も継続している。次年度は自治会長様に出席いただけるよう努力する。	市職員、民生委員、家族などが出席し隔月に実施している。市職員から「ひやりはっと」があれば報告するよう指導があり9月より実行している。家族からホームページを作ってPRしたらとの助言を貰った。	災害時や利用者の単独外出時の支援を得るためにも、地域の代表である自治会長の出席が実現できるよう今後も引き続き参加要請の努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月発行している、広報誌「傾聴」を地域包括支援センターへお届けしている。不明な点など、その都度、質問し、アドバイスをいただいている。	市内のグループホーム、市の担当者が2ヶ月に1回集まり、各グループホームの問題点など情報交換している。事業所が地域包括支援センターからアドバイスや要請を聞くなど密に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まずは、何が身体拘束にあたるかを学んでいる。玄関の施錠は、防犯のためにしている。その他については、外部研修に参加するなどし、意識付けをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルを作成しスタッフ全員確認している。	職員5人が身体拘束に関する年1回の外部研修を受講し、全職員に回覧徹底している。どんな行為が身体拘束に該当するかはよく理解し、拘束しないケアに努めている。玄関の施錠が身体拘束であることは全職員わかっているが、防犯上止むを得ず施錠している。	職員による見守りを強化することや、徘徊時、地域の協力が得られるような環境作りを進め、玄関の施錠をしないで暮らせるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、全員で虐待防止に努めている。また、身体の観察、日常の変化を見のがさない。発見した際は、至急報告するよう、周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加して学んでいる。現在、後見制度を利用されている利用者様がおられ、学ぶ機会が増えた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ユニットリーダーで、十分な時間を摂り契約に関する説明、重要事項の説明を行っている。その時に質問等をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度のケアプラン見直し時期に、ご家族への説明と共に、ご意見、要望をお聞きしている。また、面会時にもお聞きするようにしている。	夏祭りや冬にお鍋を囲むイベントを家族と共に開催している。その時や家族訪問時に利用者のケアの実態を説明し、また家族の意見・要望等を聞くよう努力している。苦情相談窓口は重要事項説明書に記載している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談がある。また、毎月開催されるユニット会議においても、意見を聞く場を設けている。	年2回代表者と職員との個別面談を実施している。職員会議やユニット会議時に職員から意見や提案を聞いている。職員から寝ることの多い利用者の固まりそうな体にクッションを当てる提案があり実施し喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算となり、しばらくは手当として職員の給与に反映できる。しかしまだまだ介護職の給与の改善まではいかない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得しやすい勤務シフトになっている。また、階層別研修等、外部研修へ参加できるように勤務が考慮されている。、費用は事業所が全額負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在市内にあるグループホーム8事業所と小規模多機能施設1事業所の管理者、職員が2ヶ月に一度、市役所において、情報交換や、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の際、出来る限り、ご本人から話しを聞くように努めてはいるが、家族の要望等が多くなかなか本人から十分な要望等をお聞きできないことが多い。利用後に少しずつ信頼関係を築いていっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問など、お話しのできる機会を多くとり、信頼関係を早期に築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、利用者様、ご家族様共に、安心して穏やかに過ごしていただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節ごとの行事や、日々の関わりの中で、利用者様から教えていただくという姿勢を忘れない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時等、職員も共に日常生活の話しをしたりして、時間を共有できるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方の面会時には、ゆっくと会話できるよう、居室へご案内している。また、年賀状など、利用者様に書いていただき、郵送している。	益・暮の一時帰宅、実家行事への参加は、本人の希望と家族の都合を事業所が調整している。介護度の低い利用者は携帯電話を持参し、家族や馴染みの人に電話している。葉書の郵送や年賀状作成も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション活動等を通して、関わりをもっていただけるよう支援している。また、座席の場所等を配慮し、利用者様同志、友好的な関係を築いていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院中は、定期的に見舞い、経過を把握している。また、退所後、年賀状や広報誌の発送を行い、交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動の中から、思いや意向の把握に努め、毎日のミーティングにて、情報が共有できるように取り組んでいる。	職員は日常生活の態度や言葉、仕草の中から、利用者の意向や思いを汲み取り、業務日誌に記載している。その情報は、毎朝のミーティングやユニット会議で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活や言動の中から、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。事前の利用サービスについては、面接時の聞き取りのみとなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、心身状態の変化を早期に気づけるよう、また、残存能力の現状を総合的に把握できるよう、申し送りで情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、ご家族様と連絡をとり、主治医と相談し、ユニットでの話し合いをもって、介護計画を作製、変更している。	家族や本人の要望を確認し、月2回往診の医師、看護師、職員の意見を聞き介護支援専門員が中心になり介護計画書を作成している。計画書は3ヶ月毎に見直しをして家族に説明の上、確認印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化が生じた場合はその都度、話し合いの場を作り、新たな計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて、柔軟な支援ができるように努めている。例えば、緊急入院時や医療機関の受診は、ご家族に連絡の上、不都合な場合、事業所に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々のサポートにより、外出のお手伝いをさせていただいている。また、民生委員の支援により、地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の担当主治医が2名おられ、利用前に利用者様、ご家族様に説明し、主治医の変更と適切な医療について同意をもらっている。	利用者と家族全員の同意を得て、当事業所の協力医をかかりつけ医としている。今年6月から医療連携体制加算事業所として、毎週火曜日に提携医の看護師が訪問し体調管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年6月より、医療連携体制を整え、週1回の訪問看護師が体調管理に訪問するようになったことにより、利用者様の安心感が増したと思われる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必ず付添い、担当医師、看護師と情報交換を行い、入院中は、定期的に面会し、ご家族様と相談しながら、早期退院へ向けて医療機関との話し合いをもつ。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族との話し合いの場は、早い段階でもっているが、ご本人との話し合いの場は殆ど持っていない。ご家族様、主治医、事業所で話し合い、方針を共有している。施設の終末期における対応について、指針を文書化し、説明、同意をえることができた。	終末期における対応指針を明確にし文書化して、家族全員に承認してもらい、同意印も貰っている。家族と介護の方針の共有を図れるようになった。看取りは昨年1人、今年も1人行った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、各ユニット、事務所、ワーカールーム等に設置し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を利用者様と共に行っている。消防署の職員にきてもらって説明を受けている。平成23年3月にスプリンクラーを設置した。避難訓練には地域住民の方にも参加いただけた。	避難訓練時に消火訓練も実施している。夜間を想定した避難訓練も行なっている。利用者の救出はマットレスに包み、職員1人で引っ張って搬送する方法を取った。近所の住民には見守りをお願いし協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を敬う気持ちを忘れずに、その人に合ったケアに取り組む事をチーム全体で対応するよう努めている。	利用者に対する言葉遣いや態度について、月1回のユニット会議で、お互い敬う気持ちを持って接しているか話し合っている。職員同士で気になった時は都度注意している。個人情報鍵の掛った戸棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の伝えたい事をしっかりと把握し、受け止め、自己決定できるよう支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生命保持や安全以外の理由で、職員が決まりや都合を優先することのないよう、利用者様のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室は近隣の美容室へ出かけている。その日着用の衣類をご本人が選択できるよう心掛けるが、継続できていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に盛り付けをお願いしている。昼食は職員も一緒に同じ食事をいただいている。状態に合わせて、通常食、ソフト食、ゼリー食、ミキサー食の中から選択している。	配食サービスを利用し、利用者は盛り付けを手伝っている。毎月の誕生会には、商店街に買い物に出かけ、利用者と職員と一緒に料理を作っている。庭で秋刀魚を焼いたり、さつま芋を焼いたりして季節感を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の仕入れ先にて、カロリー計算されており、摂取量の把握をきちんとしている。水分量についても把握している。水分については、好みをお聞きし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、尚且つ義歯装着の方は夜間義歯洗浄剤に浸けて義歯洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様別に排泄チェック表を作成し、それぞれの方の排泄パターンを把握している。水分摂取量も考慮し、トイレ誘導を実施している。	個人別の排泄パターンを把握した上で、トイレに誘導しており、失敗が少なくなってきている。夜間も2時間ごとに声掛けしている利用者もいる。リハビリパンツではなく殆どの利用者が布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物を沢山摂取してもらえるよう支援すると共に、主治医に相談し、便秘の防止に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間はほぼ毎週決まっている。中には、毎日夕方に入浴をされる方もおられ、その人数が増えるように努力したい。10月より機械浴を設置し、より安全で快適な入浴時間が提供できる。	機械浴(座浴)を設置してから、利用者はより安全で気持ち良く入浴出来るようになった。職員も声掛けをする余裕も出来、基本的に1人での介助となった。入浴回数は週に2回だが、希望者は週3回としている。	今後は全員が週3回の入浴が出来るように、更なる改善を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、その人に応じた生活時間を提供している。夜間の不眠を訴える方には、暖かい飲み物の提供や、職員との会話、居室の温度調整など行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師より説明を受け、各個人ケースに薬情報を保管し、職員に周知している。薬の変更、中止については、書面で各ユニットに連絡し、誤薬のないよう周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現状に合わせた役割、楽しみを支援し、新しいことにもチャレンジにもらえるよう工夫をする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じるための外出支援を行っている。初詣、花見、紅葉狩り、紫陽花見物、コスモス見物など。また、外出を好まれる方には、毎日のように商店街まで散歩にでかけている。	季節ごとの外出は、車に酔われる方以外は全員が日にちを変え出掛けている。普段は商店街等へ散歩に行く方がいる。今まで外出を支援してもらっていたボランティアが来られなくなったため、現在は職員の負担が大きくなっている。	季節を感じるための車での外出、商店街で開催される行事への参加時には、職員が何度も往復している現状を鑑み、ボランティアの再募集、活用を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理は行っていない。必要物品、個人の購入希望品があれば、事業所が立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状はやりとりができるよう支援している。希望があれば電話の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた、花や人形を飾ったり、壁紙を利用者様と共に製作している。食事時間はゆったりとした音楽を聞きながら、食事をしている。	居間兼食堂と台所が一続きとなり、広々としている。大きな掃き出し窓から、庭を眺められる様に各テーブルを配している。各所にハワイの写真や利用者が書いた毛筆の書などを掲げ、明るい雰囲気醸し出している。浴室、トイレも広くて清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し、食卓ではない場所で時間を過ごせる工夫をしている。畳スペースを作り、足を投げ出して座ることにより、浮腫の軽減や、コミュニケーションのバリエーションを増やせる場として活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、馴染みの家具等の持込みを依頼している。しかし、なかなか、お持ちいただけなのが現状である。	各個室は明るく、冷暖房、スプリンクラーが取り付けられている。使い慣れた筆筒を置いた部屋もあり、壁には利用者が書いた毛筆の書や、記念づくりに事業所で撮ったウエディングドレス姿の写真を飾った部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの配置、個々に合わせた介護用品の使用、体型に合った椅子の使用、または足台の使用。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	入浴を楽しむことの支援として、入浴日を施設が決めている点	出来る限り利用者様の希望に沿えるような入浴日、入浴時間の設定をする	機械浴の設置も完了し、まずは入浴の回数を増やすことから始める	2ヶ月
2	4	災害時における、地域の方の支援をいただく体制が構築できていない		災害時における具体的な要望事項を书面化し、自治会長、民生委員、近隣住民の方々へ依頼する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。